

国文学研究

第百八十七集

百首歌としての『隆房集』

後鳥羽院四百年忌和歌の催行

倚松『寄合ひ筆』文章の趣向

——『奥の細道』享受の二側面——

夏目漱石「琴のそら音」

——「催眠術」と心靈字

『雁』論

——物語の書き手としての「僕」——

明治百年と未来の共和国の幽霊

——安部公房『榎本武揚』の戯曲化をめぐる——

本居宣長の四声認識について

〈書評〉

高梨素子著『古今伝受の周辺』

大倉比呂志著『風に紅葉考——百花繚乱する「性」への目差し——』

野本 瑠美	高梨 素子	金子 俊之	藤尾 健剛	中村 圭祐	鳥羽 耕史	上野 和昭	浅田 徹	辛島 正雄
1	15	30	44	55	68	80	93	96

高梨信博先生略年譜・主要著作目録
竹本幹夫先生略年譜・主要著作目録
新刊紹介 彙報 編集後記

前 号 目 次

藤原宇合「秋日於左僕射長王宅宴」詩の論

土佐朋子 1

——藤原宇合の「反招隠詩」——

紀貫之「望月の駒」詠をめぐる

荒井洋樹 13

——貢馬儀礼と和歌解釈——

手習卷の表現方法

栗山元子 27

——追い詰められる浮舟——

藤原定家最晩年の感懐

兼築信行 42

——「名号七字十題和歌」の述懐歌から——

世阿弥時代の能本相伝と作品改作

竹本幹夫 56

浅井了意作『戒殺物語・放生物語』について

木村迪子 71

——中国浄土教思想との関係に注目して——

文芸批評家内田不知庵と翻訳の文体

大貫俊彦 84

——翻訳出版期における作品選択と言文一致体の意味について——

オルダス・ハックスレイと中島敦

石井要 98

——『過去帳』への一視角——

新刊紹介 彙報 編集後記